

集められた税のその後を考える



真室川町立真室川あさひ小学校教諭 6学年 井上 幸治

実施年月日：令和2年1月30日 11名

1 実践計画・指導のねらい

子どもたちは、実際に自分たちも払っている消費税という言葉は身近でよく知っているが、今年度は税率が8%から10%に上がったこともあり、「たくさん払われている」というような印象も持っている。そこで、町税務係による租税教室や集められた消費税がどのように使われているのかを調べる活動を通して税の有用性を自分の生活と結びつけながら考えさせていく。また、教科書や各資料から、税の種類や多様性を知るとともに、集められた税金が自分たちの町ではどのように使われ、どのような町づくりをめざしているのかを調べることで、自分たちの暮らしと税の関わりについて身近なこととして考えさせていきたい。

2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問 (○)、子どもたちの反応 (●)、使用教材等 (□)
1	・租税教室を通して、税のあらましについて知る。	○ 税金は、何のためにあるのでしょうか。 ● 税金がないと、警察や消防も有料になって困る。 ● 税金は、気付かないところでも自分たちの生活に役立っている。 □使用教材名 町民課税務係による租税教室 DVD「マリンとヤマト 不思議な日曜日」 
2	・税金の種類や集められ方について調べる。	○ 税金は、どのように集められているのでしょうか。 ● いろいろな種類の税金があって、約50種類集められている。 ● 所得税は自分で納める税。消費税はお店がまとめて納めている。 ● 入湯税やゴルフ場利用税など面白い税もある。 □使用教材名 副教材「わたしたちのくらしと税金」 教科書「新しい社会」(東京書籍)
3	・上がった税金がどんなところに使われているのかについて調べる。	○ 増えた2%の消費税は何に使われるのでしょうか。 ● 消費税は、国と地方で分けて使っている。 ● 増えた税で、幼稚園や保育所にお金を払わなくても通えるようになる。大学の授業料も減らすことができる。 ● 介護や年金、福祉にも使われる。 ● 2%は増えても納めることで、自分やみんなのためになる。 □使用教材名 副教材「わたしたちのくらしと税金」 副教材「これからの日本のために財政を考える」(財務省)
4	・真室川町ではどのように税金が使われ、どんな町づくりをめざしているのかを考える。	○ 真室川町はどんな町づくりをめざしているのでしょうか。 ● 民生費が多く、福祉や子育てに力を入れた町づくりをしている。 ● 教育費も10%近くあって、教育にも力を入れた町づくりをしている。去年からぼくたちの学校の副教材費にも、税金が使われている。 ● 道路や防災など、安心して住みやすい町づくりをしている。 □使用教材名 真室川町広報 619号 625号 真室川町議会だより 148号 

【指導のポイント】≪1時間目≫

児童の税に対する興味関心を高めるため、導入として、町の税務係の方を招聘した租税教室を行った。税のあらましについてお話しいただき、ビデオの視聴を通して、税金がなくなるとどうなるかについて考え、税は自分たちの生活にとって大切なものと理解できた。

【指導のポイント】≪2時間目≫

教科書や「わたしたちのくらしと税金」を活用し、税金の種類や集められ方について調べ、自分で納める直接税や店の人が預かってまとめて納める間接税があることに気付くことができた。

【指導のポイント】≪3時間目≫

今年度、消費税が8%から10%に上がったことから、その2%は何に使われるのかを資料を活用して調べた。教育や介護、福祉などに使われ、将来、自分たちにとっても大切なもので、税金は上がっても納めることは必要だと感じる事ができた。

【指導のポイント】≪4時間目≫

町の広報や議会だよりを資料として、真室川町の決算や予算のグラフを調べた。町の主要事業一覧も読み取りながら、どんな町づくりをめざしているのか考え、意見を交流した。議会だよりから税金の使い道について議会で話し合っていることも確認できた。

3 実践の成果 (◎) と課題 (◆)

- ◎ 租税教室での外部講師のお話や増えた消費税の2%の使われ方を調べる活動を通して、児童の税金に対する興味関心が高まった。
- ◎ 広報や議会だよりなどを活用し、自分の住む町の税金の使われ方を調べていくことで、身近なこととして税金の有用性について捉えることができた。
- ◆ 2時間目に外国のソーダ税やポテトチップス税など紹介した際、児童は興味関心を持って聞いていたが、諸外国との税の種類や仕組みなどを調べて比較する活動も有効であると感じた。
- ◆ 今回は租税教室を実施したが、他にも議会の傍聴や役場の職員の方々へのインタビューなど各機関と連携した単元の計画もできればと感じた。